

洋上風力発電事業について

問合せ
総合政策課企画政策係（内線1362）

最新の情報を随時お知らせしていきます！

胎内市の現在の段階

胎内市では洋上風力発電事業の誘致促進に向けて取り組んでいます。そこにはまず、胎内市・村上市沖が再エネ海域利用法（※）に基づく促進区域として、国から指定される必要があります。

この促進区域に指定された後、国が公募により事業者を選定するとともに、最大30年間占用できる許可を与えることになります。

現在の胎内市は、促進区域の指定の前段階に位置しています。

※海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律

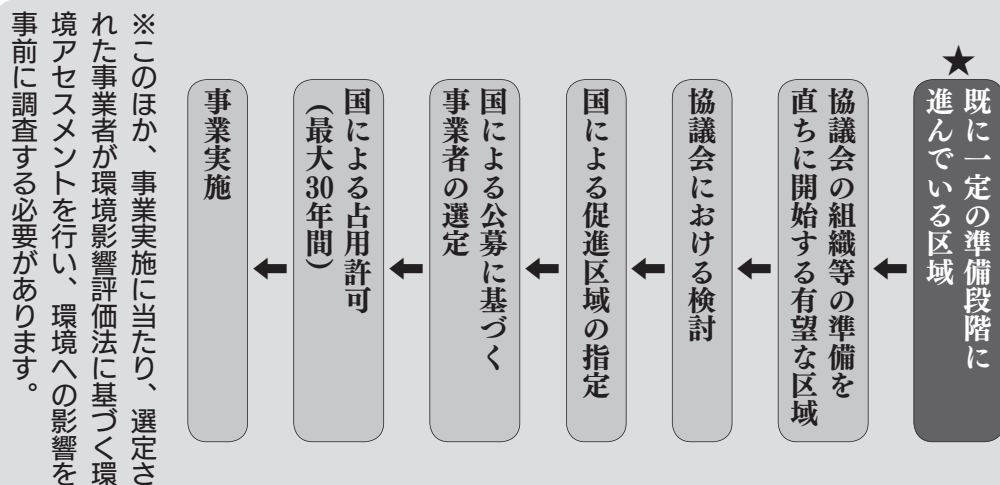
↑Middelgrunden

世界で最も美しいウィンドファームといわれるコペンハーゲン沖の洋上風力発電（東京大学名誉教授 荒川忠一氏撮影）



↑会社名：株式会社ウィンド・パワー・いばらき
サイト名：ウィンド・パワー・かみす第1洋上風力発電所

洋上風力発電事業が立地されるまでの主な流れ（★は、胎内市の段階を表す）



クリアすべき課題

胎内市・村上市沖が再エネ海域利用法に基づく促進区域として国に指定されるために、国から今後の進め方の留意事項として①、②のような事項が示されています。

また、洋上風力発電施設の建設に当たっては、風車を製造し、組み立てる基地港や稼働後の運用が必要となるメンテナンス港の整備が必要となりますが、これについては、国県が行うものであるため、計画的に整備を行うよう要望しているところです。

国から示された今後の進め方の留意事項

- ① 系統の確保をすること。…発電した電気を電力会社の送配電網に接続するための空き場所（容量）を確保すること。
- ② 利害関係者の特定および調整をすること。…漁業者を始めとする利害関係者との合意形成に向けた調整をしていくこと。

※ ※ ※

特に①については、事業者が国のルールに基づき、クリアすべき課題であると言えますが、市としても県とともに電力会社に最大の配慮をするよう要望しているところです。

市

トピック1

期成同盟会が設立 されました！

12月25日、産業文化会館2階会議室で、市、市議会、商工会、農業協同組合、金融機関、漁業関係者、環境団体、沿岸集落の区長等で構成される期成同盟会の設立総会が開催されました。



を念頭に、地域の誘致に対する機運の醸成を図り、その声を大きく県へ届けようと設立されたものです。

総会では、事務局から設立趣意書のほか、規約、役員、事業計画についての議案が提起され、全会一致で承認されました。

▼会長：井畑市長

▼副会長：大久保勝由氏（中条町商工会会長）／小谷淳氏（黒川商工会会長）

●期成同盟会事務局 総合政策課企画政策係内（内線1362）



市

トピック2

洋上風力に関する 講演会が開催 されました

12月25日、産業文化会館2階会議室で、市民の皆さまに洋上風力発電に関しての理解を深めていただくという講演会を開催し、122人の方にご参加いただきました。

この日は、東京大学名誉教授、世界風力エネルギー学会副会長の荒川忠一氏を講師に迎え「洋上風力発電の国内外の最新情報と日本の採るべき方向性」を演題に、海外の最



新の事例紹介とともに洋上風力発電には無限の可能性があり経済性で魅力があることなどを話していただきました。

参加者からは地球温暖化が深刻になっている現状から再生可能エネルギー政策を推進しなければならぬ等の積極的なご意見があった一方、低周波で人体、鳥、魚等に影響を及ぼすようなことはないか、景観はどうなるかなどを心配するご意見も寄せられました。

市では、こうした心配等を一つずつ着実に検証して、しっかりと不安材料が全て払拭されるという前提を整えて取り組を進めていくことにしています。

県

トピック3

新潟県洋上風力発電導入研究会の地域部会も 開催されています

市報の1月合併号16ページにも掲載していますが、県において昨年6月に新潟県洋上風力発電導入研究会が組織されており、11月にはその研究会の地域部会が開催されています。

この地域部会では、洋上風力発電の候補海域として想定される胎内市・村上市沖について、胎内市、村上市の漁業者や地元集落の区長、観光協会、商工会などの団体が出席して課題等の検討をスタートさせています。

